

結核とのたたかいは続いている

1973
作品ナンバー0113

文部省選定

ミクロ撮影を生かしたこの作品は、結核研究所の一室に泊り込んで徹夜の連続ミクロ撮影を半年も続けて誕生。「研究所の人々から大変ですねとねぎらわれたが、顕微鏡を覗くのが面白くて夢中になっているうちに時間がたってしまった」と、監督とカメラマンは語っていた。



結核はいまだに多くの人の生命を蝕み、その治療には長期を要する病気である。結核菌は、1ミリの200分の1以下という微生物で、しぶとい生命力を持っている。私たちの体には外から侵入してきた細菌などを退治する能力がある。喰菌作用をする白血球もそのひとつで食べた細菌を消化してしまうが、毒力の強い結核菌の場合には白血球が壊れて、結核菌は消化されずに残る。白血球よりさらに強い喰菌力をもつ大喰細胞でも、結核菌を次々と食べ続けると壊れ、消化されなかった結核菌が殖えて延び出す。結核菌はこのように肺の組織を破壊して殖え、病巣は広がっていく。この結核を予防するのがBCGワクチンである。これを生きたまま接種すると、体の中で白血球や大喰細胞等がBCGを消化し、結核菌に対する抵抗力を持つようになる。体内に結核菌が入ったかどうかを検査するのがツベルクリン反応である。

ストレプトマイシンの発見以来、いろいろな抗生物質が開発されて、結核の治療は手術中心から薬剤による治療に変わっていった。しかし、薬剤に抵抗力を持つ耐性菌の問題が生じ、新しい抗生物質の開発も試みられている。忘れてならないことは、体の抵抗力を強め、結核の感染を未然に防ぐことで、その抵抗力の研究としてリンパ球の研究が行なわれている。リンパ球の作り出す物質が、新しい大喰細胞に伝えられると、その大喰細胞の結核菌に対する作用が強められるのではないかとということが、様々の実験から判明してきている。

記録

16ミリ

カラー／30分

日・英・インドネシ

ア・タイ・アラビア・

ネパール語版

- 企画
(財)結核予防会
- 監修
結核予防会結核研究所
- 協賛
日本チバガイギー株式会社
- 指導
結核予防会結核研究所
島尾忠男
岩井和郎

スタッフ

- 製作
村山英治
- 脚本・演出
渡辺正己
- 助監督
藤原道夫
- 撮影
加藤和三
戸田祥一郎
永井弘道
- 照明
久保賀作
- 編集
沼崎梅子
- 解説
高島 陽